

田島議員の「青少年問題は全く問題がない」は本当か？

学級崩壊、喫煙、備品破壊の石和中学！

「同級生の机の中には馬券が・・・」

昨年12月の市議会において田島茂洋議員（公政会）は「ウインズ石和を視察した結果、青少年の問題につきましても問題がない」「青少年の馬券場内での遊びや徘徊は全くない・・・」「何一つ懸念するところはありませんでした」と発言しました。

この点について、星合氏は石和の実情について、次のように報告しました。

「昨年12月の有馬記念があった時、ウインズ石和に行ったところ、親に連れられて子供が入っていました。そして親が子供に鉛筆を与え、馬の名前に×をつけさせてバクチをさせていました。そういう光景を実際に見てきました。」

「同級生の女の子が男子の家に遊びに行ったら机の引き出しに馬券が入っていたということを聞きました。子供達が自然に馬券を買ったり見たりするようになってい

る問題は問題だと思っています。」

「荒れた学校として名指しをされた石和中学校が汚名を返上したという昨年12月3日の読売新聞に載った記事を紹介します。

この新聞記事によると、笛吹市立石和中学校は『学級崩壊、喫煙、備品破壊などで荒れた学校』と名指しされていました。

一回の「審査」

昨年12月21日の本会議で「馬券場誘致の請願書は産業建設常任委員会に再付託し継続審査する」ことに決まりました。

これをうけた同委員会が1月29日に開かれ、わずか一回だけの「審査」で請願書を「採択」しました。賛成は、正村嘉規、渡辺史郎、小林武、田島茂洋、細江正人の5議員、反対は北村収議員1名のみでした。

田島議員はこれまで「非常に有利な企業である」から誘致せよと主張していましたが、この日の討論では、馬券場誘致は「財源確保のための手段」だという本音を出して注目されました。

また、正村議員は1月29日の同委員会です「石和の青少年問題は場外馬券場で解決することのできないそれ以前の問題です」

「全国から多くの母子家庭の皆さんとかい

『学校中にたばこの吸殻が落ちている』『新しい自転車で通学するとすぐに壊される』などの悪評が絶えませんでした。

赴任先が同校に決まった教諭は、生徒指導の苦勞をくんだ同僚から慰められたそうです。このように荒れた石和中学校でしたが、現3年生が中心になって学校を変え、最近

は落ち着きを取り戻したという記事です。

荒れた学校とか、荒れた子供達の問題は馬券場も影響するし、今の教育の問題や家庭の問題なんかも影響すると思います。」

星合氏の報告からも、「青少年の育成において地域の環境が如何に重要であるか」がわかります。

「もし彦根に馬券場がつくられ、バクチをする親子連れや机の中に馬券を入れている子供たちが珍しくなくなり、中学校が荒れに荒れる・・・」こう思うとぞっとします。

私たち大人が「親が青少年育成に悪影響を及ぼすものを持つてくる」という無責任なことをやっていいわけがありません。

彦根市と子供たちの未来のためにも、ギャンブル施設である馬券売場の誘致には断固として反対しなければならぬのではないのでしょうか。

で突然、採決

ろんな方がいらつしやって、夜になるとお母さんがお仕事に出てらつしやる、子供たちはその寂しさのあまり、外に出て行く、そういう問題があったということでございます。」と発言しました。これは、石和の青少年問題と母子家庭を結びつけた母子家庭に対する偏見であり、断じて許すことができません。

他方で、正村議員は「石和で交通渋滞は実際に起こっております」「私は場外馬券場に反対していた時から、こんなもの来たって商店街は繁栄しない。馬券で負けた人はすぐ帰るし勝った人はその金もって帰りますよ」と発言しました。

『交通渋滞は事実』『商店街は繁栄しない』この二点に関する限りその通りですから、正村議員も誘致には反対して下さい。